



白い肌に映える美しい色絵で知られる九谷焼。「古九谷」の伝統を守りながらも、作風は時代に合わせて少しずつ変化していった。現在は様々なライフスタイルに合う多種多様なデザインの器が生み出されている。

写真:アフロ

石川県 九谷焼

(くたにやき)

江戸時代前期、村内で陶石が発見されたことをきっかけに磁器の生産が始まった九谷村(現在の加賀市)。その磁器は地名から「九谷焼」と呼ばれ、白い器の肌に描いた青、黄、赤、紫、紺青の“五彩”による美しい絵付けが人々を魅了した。だが、藩の財政難などにより、器の生産は50～60年で終了。この時期の九谷焼は「古九谷」と呼ばれ、現在もコレクターの間で珍重されている。

それから約100年、江戸後期に九谷焼が復興。青と黄色を多用し器を細かな模様で埋め尽くす「吉田屋風」、赤絵と金彩が華やかな「飯田屋風」などの作風が登場した。明治時代になると政府の産業振興政策により、九谷焼の輸出が盛んに。中心になったのが陶工・九谷庄三で、彼の赤絵と金彩による精密な色絵付けはヨーロッパで「ジャパंकタニ」として人気を集めた。以降、九谷焼は工芸品の枠を超え、美術品としての価値も高めていく。

M

国内外で愛される華やかで力強い色絵

! 重要な注意事項

金融商品のお取引にあたっては、各商品等に所定の手数料等(国内上場株式、ETN(上場投資証券)、ETF(上場投資信託)等取引の場合は約定金額に対して最大1.43%(税込)[ただし、193,000円以下の場合、最大2,750円(税込)]の委託手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。外国株式の委託取引には、現地委託手数料と国内取次手数料の両方がかかります。現地委託手数料等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その金額等をあらかじめ記載することはできません。詳細はお取引のある部店までお問合せください。国内取次手数料は、約定金額に対して最大1.1%(税込)が必要になります。債券の取引は、購入対価のみお支払いいただくこととなります。また、各商品等には価格の変動や、投資対象とする有価証券の発行者の信用状況の変化、金利・為替相場の変動等により損失を生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面等をよくお読みください。本資料は信頼できると思われる情報をもとに当社が作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、将来の運用成果等を保証するものではありません。目論見書等のご請求は店舗窓口までどうぞ。

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号

加入協会:日本証券業協会・一般社団法人 日本投資顧問業協会・

一般社団法人 金融先物取引業協会・一般社団法人 第二種金融商品取引業協会